

# 山行報告



## 裏六甲・地獄谷西尾根～摩耶山

日 時：10月10日(月・祝)

参加者：L松下 岡本 小山 多木 田羅間(勤) 田羅間(易) 野村 長谷川(易) 巻藁 森川

行動記録：地獄谷入り口(体操 10:03 発)～西尾根入り口 10:15～休憩 11:03(11:08 発)

ダイヤモンドポイント 11:26～三国池 11:53～摩耶山 12:50 昼食(13:15 発)～

雷声寺 15:00(体操)～新神戸駅 15:20～三宮駅 15:50 解散

## 裏六甲・地獄谷西尾根～摩耶山へ

山陽電車の明石駅で8:18の特急電車に乗ろうかどうしようか迷いました。私以外のJRからの乗り換え組の方が来られず、この電車に乗って、はたして神戸電鉄大池駅に到着できるのか？不安だったからです。初めて



乗る神戸電鉄。まあ、とにかく一か八か、新開地に行くしかない。途中、多木さんが垂水から乗車して下さり、ひと安心。無事に大池駅に着くと、Lの松下さんの顔が・・・新快速が遅れて、明石駅で山陽電車に乗り換えが出来なかったとのこと。ホッとしたのもつかの間、皆さんが揃ったところで、30分ほどかかって、地獄谷登山口へ。登山口でストレッチをして、六甲地獄谷から、登ります。

## 小 山

ここは熟練者向けのコースということで、急登が続きました。1時間20分ほど登り、標高740mのダイヤモンドポイントに到着。ここからは、北側に広がる景色を楽しむことが出来ました。一路、摩耶山へ。途中、三国池という大変綺麗な池を見ました。ひたすら、下りの中にもアゴニー坂のような急登もあり、摩耶山掬星台まで1時間20分かかりました。こちらで昼食。松下さんがお湯を沸かして下さり、初めて登山中にコーヒーをいただきました。山でいただくコーヒーは最高でした。1時間近くの昼食のあと、摩耶道を下り、雷声寺へ。ここでストレッチをして市街地を抜け、新神戸駅まで下りました。

六甲山というのは私にとっては不思議な山？です。何通りもの登山道があり、大変魅力的な山ですが、登っている途中で、車で登ってきた人と同じビューポイントで景色を眺めたり、摩耶山掬星台のようなたくさんの人がイベントで使用する公園があったり・・・下から登ってようやくたどり着いた所がこういう所だと、寂しくなりますね。

## 東日本大震災（石巻農協）支援ボランティアバス参加報告

砂川

期 日：2011年10月7日（金）夜～10月11日（火）朝（車中2泊、現地2泊）

参加者：大谷、尾越、切貫、澤田（律）、砂川（延）、瀬尾、森永  
（延べ16会から35名参加）

10月7日20時に県連盟事務所前に集合して一路東北に向け出発する。この移動中に現地から支援活動の現場が牡鹿半島から、その東の海上にある島・金華山にと変更の連絡電話がはいる。

10月8日（土）

石巻市内のイオンショッピングセンター駐車場で現地責任者の岡さんと合流し、レンタカー（マイクロ1台、ワゴン1台、バン1台）に乗換える。岡さんの車に先導されて、石巻市内南部の津波被害の大きいところを経由して牡鹿半島の鮎川町に向かう。



鮎川町にあるボランティアセンターで指示を仰ぎ、港からモーターボートと小さな客船の2艘で金華山に向かう。1艘の客船の方が、調子が悪く途中で引き返してきたりしたため、金華山への到着が遅くなり、現地に入って全員が集結した時間が15時をまわっていた。この島にある「黄金山神社」の神主から島の現状と作業内容について説明を受け、17時までの予定で島の中腹にある水源地のダムの底に溜まっている土砂の搬出作業を行う。

10月9日（日）

前日に引き続きダムの土砂搬出作業を行い12時に作業を終えて、昼食後昨日の連絡船で鮎川港に向かう。鮎川港から本日の宿泊場所である「水沼東部構造センター」に向かう。途中牡鹿半島の先端にある公園の壊れかけた展望塔の側から、金華山や太平洋を眺めた後、牡鹿交流センター（石巻市立）で入湯後、津波被害が大きかった女川町を回って現在の街の状況を見て、宿泊場所のセンターに向かう。

夜は食事を挟んで宮城労山の理事長・新田さん、現地の岡さん他を交え被害状況の説明やビデオを見る。牡鹿半島と金華山の間にある海峡が津波の引き際には海底に海水が無く丸見えになっている状況が写っているのには驚いた。

10月10日（月）

栗駒山登山に向かう。道中に北上川の側にある大川小学校に立寄り、児童70名余りが無くなった現場を見る。

3班に別れて栗駒山に上がり、素晴らしい紅葉に包まれた景色を眺める。帰りは石巻市内にある道の駅「上品（じょうぼん）の里」で入湯後、バスに乗り換えて石巻市内で夕食後帰路についた。

## ■ ボランティアは楽しい??

## 尾越



石巻市の牡鹿半島東南にある金華山という島に行きました。「三年続けてお参りすれば一生お金に困ることはない」という言い伝えがあり、神の使いとして保護されている多数の鹿が生息しています。作業はライフラインの生活用水として作られたダムが、台風により溜まった土砂の撤去でした。土嚢袋に入れた土を、引き上げ約30名の手渡しにより運び山道の整備に埋めました。他の会の方との交流もあり、楽しくあつと言う間に終わった感じですが、

達成感がありました。作業場の変更、お風呂の確保等担当者の方のご苦労は大変だったと思います。現地の様子も砂川会長の運転で海岸線を走って頂いたお陰で津波の凄さ、住居の悲惨さを目の当たりにし、まだまだ復興ではなく復旧中であることが良くわかりました。最終日の栗駒山の交流山行は秋晴れの中、素晴らしい紅葉を楽しむこともでき、充実した毎日でした。ありがとうございました。

## ■ 復興への祈り

## 大谷

震災から7カ月が過ぎているので、瓦礫は大体撤去が進み、大分整理されていた。牡鹿半島を1周する形で見て廻ったが、家が建っていたであろう基礎の跡だけが残っている所に花が手向けられていた。

夜、車で走っていると真暗闇で、行けども行けども野原を走っているようだ。広い範囲で地盤沈下していて、土地がすごく低くなっている。人の住まない土地は直ぐに自然に帰ってしまい、荒れ放題になってしまう。元の街の状態になるには、想像もつかない年月がかかるでしょうが、少しずつでも何とか活気を取り戻して欲しいと思います。

## ■ 今、何ができるだろう

## 切貫

ボランティア参加の話聞いた時、迷わず申し込もうと思いました。

石巻の高速から降りて傷んでいる道路の移動中、目に入るのは、更地の土地とかろうじて残っている家と建物、これも倒壊しています。海の水が人も家も車を何もかも根こそぎさらって行ったなんて信じられないくらい穏やかな波でした。まして高台の女川町民病院の患者と海より奥地に在る大川小学校の多数の児童の命をさらうなんて予測出来なかったと思いました。

金華山から水沼への行く道中も何もなく真っ暗闇です。そんな中、仮設住宅から漏れている明かりが悲しげに見えました。そんな大変な状況の中、食品の移動販売車のおじさんが私達に大きな梨を10個も差し入れして下さいたのには、吃驚すると同時にこれからの私に何がして上げられるか考えさせられました。

## ■ 仲間の力

澤 田

今回は金華山に入り、金華山神社の水ダムに蓄積した汚泥の排出作業を実施した。多人数での作業だったので、短時間ではあったがお役にたつことが出来た。しかし、泥はまだ、たくさんある。後続のボランティアに早く入ってほしいと思った。ライフラインの確保が、早急に回復しなければ、安心して生活できないだろう。

また、石巻労山の皆さんに温かく出迎えて頂けた。そして「現地を良く見て、他の人に被災地の現状を伝えてほしい」と強調されていた。さらに、交流会では石巻労山会員の方から、「米が放射線の風評被害で売れない」ということだった。東北地方は震災被害に放射線被曝のダブルパンチを受け、困難な状況にあることを改めて実感できた。さらに、各地域の労山からの支援で山仲間の交流が拡大し、石巻労山の皆さんの力になれているようで心強く思った。



## ■ 何人いても多過ぎない

瀬 尾

「ソーレ」のかけ声で土嚢を手渡しで、水源のダムに入った土砂を運び出した。35人の力は凄かった。でもまだ少ししか出来ていない。現地の状況は想像以上だ。もっと多くの手を必要としている。東北の山は紅葉が素晴らしい。海の幸もいっぱいある。早く元気になってもらおう。

## ■ 津波破壊力の凄さ

森 永

金華山の渡し船の奥さんに聞いた話。家は、すぐそこ。家も金庫も流された。この辺りは、金庫預金をする人が多い。今は、「仮設」と言われる目の奥に、キラッとひかるものが一瞬見られ、寂しい表情にはかける言葉もなかった。女川町民病院は、湾から30m位高台にある。患者や避難してきた人達が見物していて病院の裏の山に当たった津波が引き潮で病院の1階と見物していた人達を全部拐っていった。湾の近くの6階建ての鉄筋のビルは横倒しになっていた。津波の凄い破壊力を改めて思い知らされた。

## ■ 剣尾山



日 時 : 10月16日(日)

参加者: A班 L和田 S L澤田(卓) 足立 臼井 金島 蔵田 嶋澤 砂川(美)  
瀬尾 武田 開

B班 L澤田(律) S L中嶋 池尻 岡本 狩集 塩津 砂川(延) 関山  
瀧原 渡邊(健) 三浦

行動記録: 山電高砂駅北 7:45 - JR 宝殿駅北 8:00 - 登山口 10:30 (10:40 発)

~ 行者山 11:00 ~ 山中休憩 5分 ~ 六地藏 11:45 ~ 剣尾山 12:00 昼食 (12:40 発) ~

横尾山 13:10 (13:15 発) ~ 送電用鉄塔 13:40 ~ 能勢温泉 14:30 (15:40 発)

- 宝殿駅北 16:00 - 高砂駅北 16:15

## 大阪の山 剣尾山に登る

久しぶりの山行だ。前夜のあの豪雨がまるで嘘のような晴天だ。

昨夜、私は関空からの帰り、阪神高速5号湾岸線を走っていた。ワイパ-を高速で回しても前が見えない土砂降りの中を、明日リーダーとしてデビューする我が10期生の出世頭和田さんの事を考えていた。その出世頭の和田さんは、今回はとてもツイていなかったからだ。『何とかならないものか、タイミングが悪い』和田さんも含め10期生も6人参加している。かなりの時間をかけ、参加者の安心安全を守る為、用意周到で頑張ってきたのに。ハンドルを取りながらリーダーを励ます言葉をぶつぶつ呟いていたが、その言葉も豪雨にかき消されていたであろう。

しかし、奇跡が起こった！『夜が明ければ真実が見える』と、誰かが言ったがまさにその通り。天高く馬肥ゆる秋、ブラボ-！NEWリーダー和田さんは22名を引き連れJR宝殿駅を出発したのだ！

大阪府の山に登るのは初めてだ。街が近いせいかハイカーが多い、それも学生達だ。ストレッチをし、いざ山へ。



若者たちは雑談をしながら、うさぎの様に軽やかに登っていく。私はというと、段々血圧が上がってくる・・・彼らを見ながら根性では負けないぞと自分に言い聞かせながら登った。階段は丸太でほぼ出来ていた。それが大日岩、炭焼き跡、六地藏へと続く。およ

## 関山

そ1時間半で登りきった。先ほどの学生諸君が汗もかかずに、登りきったという表情ではしゃいでいる(私にはそう見えた)。



昼食はコンビニのおにぎり2個、お茶付もついている。しばらくすると、リーダーがシルバーコンパスを取り出しこれからの方位を確認し始めてた。「さすがリ-ダ-だ。」私も船に乗っている時はそうだった。航海の途中には常に自分の位置を確認した。ハンドコンパスで目標を定めチャ-ト上に三点指示法により誤差三角形を作り中心を自船位置とし認識する。目標が無い時や濃霧等で見えない時はGPSを使う時もあった。海でも山でも、現在地を把握するのは重要なのだ。W,N,K,Aさん達が集まってきた。剣尾山山頂でシルバーコンパスの実習座学の始まりだ。何とかしてコンパスを自分の物にしたい気持ちは皆とおなじだが、何回教えてもらってもすぐに忘れてしまう。しかし、私は諦めないと決めている。そこに山がある限り！

下りは案外楽だと思っていた。勾配の緩やかな、余り起伏のない、整備された山道。横尾山の山頂がどこだったかも気づかず、鹿よけのネットとかを見る余裕を見せながら順調に下って行った。が、またヤッテシマッタ！「スッテン！！」このカチカチの体が、ほぼ180度の開脚をした！「ポキッ」と音が

したが余り痛さは感じなかったが、代わりに恥ずかしさを感じた。どうやら小石上に左足から着地したようだ。あの音はM,Sさんに聞えたのでは！？恥ずかしかったがそれを振り払うように意地で歩いた・・・歩けた？ 能勢の郷。いやぁ、いい風呂だった。

やり遂げた安堵感から車中はにぎやかだった。これも和田リ-ダ-のお陰！有難うございます。

途中車を止め、一軒の露店が完売する勢いでみんな黒豆の買い込みをした。私も二束買い完売のお手伝いをした。後は家に帰るだ

け。ホッと、今晚飲む旨いピ-ルの夢でも見ようかとうたた寝の入り口に差し掛かった頃、隣のKさんが六地蔵から笠地蔵の話を聞かせてくれた。・・・いい話だった。そして前座席のkさんが日本昔話のような話で夢の世界に連れて行ってくれた。宝殿北口到着。またの山行を約束し帰路についた。

私は今、この感想文を1万m上空で書いている。眼下にどこか分からない連山が見える母なる大地から突き出した山、山。まるで私を手招きして呼んでいる様に見えた。

## 恵那山と富士見台

日 時：10月22日(土)～24日(月)

参加者：L 砂川(延) SL 西村 大谷 小山 砂川(美) 瀬尾 田羅間(勤) 田羅間(易) 松下  
行動記録：

- 10/22 高砂駅 8:30 - 宝殿駅 8:45 - 加古川駅 9:00 三木 SA9:35 (9:50 発)  
多賀 SA11:25 (12:00 発) 中津川 13:25 萬岳荘 15:25
- 10/23 萬岳荘 5:45～登山口 6:05～鳥越峠 7:00 (7:10 発)～大判山 8:00 (8:05 発)  
～前宮分岐 10:30 (10:35 発)～避難小屋 10:55 (11:10 発)～恵那山山頂  
11:20 (11:45 発)～1700m 地点 13:30 (13:35 発)～大判山 14:00 (14:10 発)  
～鳥越峠 15:00 (15:10 発)～登山口 16:30 (16:45 発)～入浴 17:30  
(18:30 発)～萬岳荘 19:20 (10/23 ヒヤリハット、14:22)
- 10/24 萬岳荘 5:15～富士見台 5:45 (6:10 発)～萬岳荘 6:40 (8:30 発)  
馬籠宿 9:20 (10:30 発) 妻籠宿 10:50 (12:00 発) 中津川(昼食) 12:30  
(13:45 発) 多賀 SA15:15 (15:30 発) 三木 SA17:15 (17:30 発)  
宝殿 18:35 東加古川 19:00 高砂 19:30

## 錦秋の恵那山へ

木曾路はすべて山の中である。あるところは岨づたいに行く崖の道であり、あるところは数十間の深さに臨む木曾川の岸であり、あるところは山の尾をめぐる谷の入口である。一筋の街道はこの深い森林地帯を貫いてい

## 松 下

た。

これは、藤村の“夜明け前”の冒頭の有名な一節である。Lの計らいで、下山翌日に馬籠と妻籠を訪ねたが、馬籠は藤村の生まれた処であり、“夜明け前”の舞台でもある。

中央高速・中津川ICを下りると、大きく恵那山が位置するが、あいにくの天気で見えない。岐阜と長野の県境に位置する恵那山から晴れた日には、南アルプス、御嶽、中央アルプス、北アルプスが望めそうだ。また、この山は古くからいくつもの歴史を刻んできた山でもある。深田久弥の“日本百名山”の一つにも数えられ、藤村の“夜明け前”にも登場する。明治中期、宣教師として来日したウォルター・ウェストンが登った山でもある（1893年5月）。古来の名山へはオーソドックスな表口から登りたい。ところが、恵那山の歴史的な登山路は、実に長く、私達の足では山中一泊しなければ無理なようだ。Lが選んだ登山路は、神坂峠から登るルートでコースタイム 約7時間30分、実際の行動時間は約10時間20分で結構ボリュームのあるルートだった。私達は深田久弥も泊まったという萬岳荘という山荘で2泊し、自炊（カレー、味噌おでん）した料理とビールで盛り上がる。



恵那山アタックの朝、あいにくの空模様でカッパ着用なり。神坂峠登山口で元気いっぱいSLの掛け声でストレッチ後、午前6時、登山開始。ガスで恵那山の姿は見えないが、

山肌を彩る紅葉が美しい！赤や黄の落ち葉が織りなす錦の絨毯のような登山道を踏んで行く。姥ナギ～大判山～石楠花の自生地～天狗ナギと、緩やかなアップ・ダウンを繰り返しながら、いよいよ前宮分岐までの最後の急登だ。ここで、一息入れて稜線へ登りつめた。ここからはなだらかな稜線歩きで、水洗トイレのある避難小屋を経て、恵那山頂へ向かう。

山頂の社にはイザナギ、イザナミの二神が祀っており、この二神が天照大神を産んで、その胞をこの山頂に納めたことから、胞山＝恵那山になったそう。

山頂では山boy & 山girl 達が集い、私たちも昼休憩にする。

下山は濡れた登山路を引き返す。だいぶん下った頃、青空が広がり恵那山の山容が現れる。

鳥越峠（1558m）から1700ピークを越えて神坂峠（1569m）への登り返しは、タフなルートのおマケのようだ。神坂峠登山口に着くと、皆さん、満面の笑みがこぼれる。

神坂峠は、かつて、木曾谷の中仙道が開かれるまで何百年の間、この峠越えが主要道路であったという。

万葉集に、千早ふる神のみさかに幣まつり 斎ふ命は母父がためという歌も残っている。

翌日は早朝5時集合で、富士見台（富士見たい）高原を散策し、萬岳荘を後にした。馬籠、妻籠を散策し、“夜明け前”の空気を吸って、木曾街道の歴史を肌で感じ帰路についた。

## 氷ノ山

### 「氷ノ山」 播磨地区交流山行

須 増

日 程： 10月29日(土)～30日(日)

参加者：砂川(延)、渡邊、和田、松下、西村、本多、須増

参加パーティー： 高御位山遊会7名 明石山の会1名 HC はりま5名  
はりま山岳会3名

行動記録：10/29 JA宝殿駅 8:40 - 豊富 8:50-9:05 - 和田山 IC 9:50 - トヨタ・スパ - 10:18-10:53  
- 八チ高原駐車場 11:33-11:38 - 東尾根登山口 12:05-12:40 - 東尾根避難小屋  
13:20-13:25 - 一の谷水場 14:12 - 神大ヒュッテ 14:50  
10/30 神大ヒュッテ 9:15 - 氷ノ山山頂 9:50-10:00 - 甌岩 10:18 - 氷ノ山越し  
11:05-11:15 - 太平頭 12:20-11:15 - 小代越え 13:10 - 八チ高原下山口 13:30  
八チ高原駐車場 13:40-14:25 - 万灯の湯 14:50-16:00 - JR宝殿駅 18:00

氷ノ山(別名：須賀ノ山)は、単独行で知られる加藤文太郎の青春時代の山と云われ、兵庫県の最高峰(標高1509.8m)として鉢伏山を入れて「私の好きな兵庫の風景100選」に選ばれている。

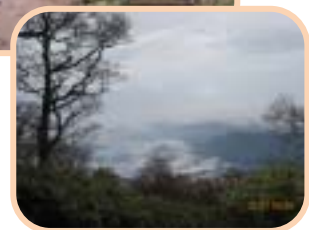
「氷ノ山」には、2008年5月の「すずこ狩り」のとき以来かと思う。その時の登山口は、大段ヶ平(オオダンガナル)からであった。今回は、季節の違った山容と新しいメンバーとの交流を楽しみに参加した。

砂川会長の車で、加古川駅経由、宝殿駅8:40に乗車し、播但道路の豊富PAで渡邊車と松下車のメンバーと合流した。和田山IC経由で養父市内の「とよだ屋」で食料品を調達後、途中の八チ高原交流センターに松下車1台を駐車してから氷ノ山国際スキー場に到着。「東尾根登山口」から「ブン廻しコース」を登り神大ヒュッテには、14:50頃に到着した。

今年、神大ヒュッテは、体育部創立50周年を迎えたことを知ったが、氷ノ山の中では、収容人数も多く立派な山小屋である。一週間前にも大学のメンバーが登って来られたことを現地で知ったが、外装のペンキ塗りや内部の清掃、薪作りなどをされ随分と綺麗にな

っていた。ここは、水もあり冬には、暖かい薪ストーブがあるのも嬉しい。

我々は、砂川会長レシピの「特製のオクラ入りスペシャルカレー」に買い物の時からびっくりしながら挑戦、各会とも予定の夕食を作り楽しい交流が図れた。早々に2階に上がり寝袋で休んだが、ストーブのお陰で暖かかった。夜中(2時頃?)にポタポタと屋根をたたく雨音が聞こえていた。朝になって、小屋から南方の下界に雲海が見られたが天候は、小雨状態であったので、我々は、予定通りのコース(東尾根線から縦走線)を歩いて交流センターの駐車場へ下った。





下山時、高丸山付近は、冬には、スキーゲレンデとなるところで、既に下草も刈られていて降雪を待つのみという状況だった。昔、若い頃は、どのゲレンデを滑ったのだろうと思いつつながら……。明石山の会の松本様も同じパーティーで、紅葉の中、楽しい山行が出来た。

帰りに「万灯の湯」に入り往路を戻り、17:40頃、豊富PAにて解散した。

関西では、気軽に登れる山として人気が高いと聞く。考えるにコースも多く比較的高い山でありながら標高差が少なく登りやすいこと。道路・標識もよく整備されているので歩き易く、避難小屋も多いので安心できること。山の自然がきれいなこと。特に

については、「氷ノ山・鉢伏山 紅葉登山大会」を10月下旬に開催(今年は10/13(日))や10/22(土)~22(日)に鉢伏山登山コースで山ガール登山ツアー(女性限定)を行うなど養父市の観光協会が力を入れていることが大きいと思う。

